

JAだより



—自然のめぐもりと暮らしたくて—



競馬ブック

ディーマジェスティ号〈(有)服部牧場生産〉

第76回 皐月賞 優勝



3強を見事に打ち負かす!

デーイマジエステイ号皐月賞優勝

4月17日、中山競馬場で開催された「第76回 皐月賞」(GI 芝2000m)で(有)服部牧場生産のデーイマジエステイ号(牡3歳 父デーイブインパクト 母エルメスティアラ)が、8番人気という低評価を覆し、牡馬クラシック一冠目を見事掌中に収めました。

レース前の評価は、早いうちからクラシック候補の呼び声高かったサトノダイヤモンド、2歳チャンピオンのリオンデイズ、最重要ステップレースの弥生賞でリオンデイズを破り優勝したマカヒキの3頭が「3強」と呼ばれ、単勝人気もその通りに1番人気から3番人気までを分け合う形となりました。

レースは、リオンデイズが先頭から2番手、サトノダイヤモンドはほぼ中団、マカヒキは後方から4番手を追走と各馬がそれぞれの持ち味を最大限に活かすためのポジションでレースを進めました。

そして、蛭名正義騎手騎乗のデーイマジエステイは、道中サトノダイヤモンドから3馬身後方を追走し、3コーナーから4コーナーにかけてもサトノダイヤモンドから離されないよう追いかけるようにして進出していきます。

直線で外に持ち出されたデーイマジエステイは、中山の急坂をものともせずに一完歩一完歩力強く走り抜け、最後は追い込んできたマカヒキに1馬身と4分の1の差をつけ、優勝を飾りました。

その後、一冠制覇を目指し、5月29日に東京競馬場で行われた日本ダービー(GI 芝2400m)に挑み、直線で十分に力のあるところは見せたもののマカヒキとサトノダイヤモンドの2頭の競り合いから2分の1馬身差の3着に敗れてしまいました。

今後は、夏場を休養に充て、復帰戦は9月18日に中山競馬場で行われるセントライト記念(GII 芝2200m)が予定されています。秋には、また大きな舞台での活躍が期待されます。



今年初めてのAiba祭が開催され 上々の滑り出しとなりました！

5月31日、ホッカイドウ競馬支援事業実行委員会主催のもと、さくらセシモニーホールで今年第1回目となるAiba祭が開催されました。

当日は、勢いのある強い雨が降り、一時は大きな雷も鳴り、Aiba祭開催日としては、客足が遠のくあいにくの天気となってしまいました。

しかし、そのような天気にも関わらず、この日を楽しみにしていたお客さんで会場の席は埋まり、発売金額が計画対比316.01%となる3,055,800円を記録しました。これは、通常のホッカイドウ競馬開催日の4倍弱の発売金額となり、上々の滑り出しとなりました。

昨年までは最終レース終了後に行っていた大抽選会について今年は、来場者の皆さん自らが抽選を行うガラボンに切り替えて実施し、目の前ですくに抽選結果がわかり、景品がもらえて嬉しいなどの意見があり概ね好評でした。

また、今回も各振興会から多くの景品のご支援があり、抽選会の盛り上がりの一助となっていました。

今年のAiba祭は、以下の日程であと3回の開催を予定しています。

その中でも8月と9月のAiba祭では、さくらセシモニーホール前に大きなテントが2張用意され、屋外で開放的な雰囲気の中、皆さんにホッカイドウ競馬を楽しんで頂けるような趣向となっております。

次回以降のAiba祭でも是非、ご家族、ご友人お誘い合わせの上、ご来場をお待ちしております。



Aiba祭開催日程

🐾 8月3日(水)

🐾 9月6日(火)

🐾 11月9日(水)

◆HBAトレーニングセール

5月24日に札幌市・JRA札幌競馬場で、HBA日高軽種馬農業協同組合主催の「HBAトレーニングセール(サラ2歳)」が開催されました。(取引価格については、全て税込み)

市場全体では、241頭(牡138 牝103)が上場され、152頭(牡86 牝66)が売却。売却率は63.1%(牡62.3% 牝64.1%)、売却総額1,118,664千円(牡683,532千円 牝435,132千円)となり、平均売却7,360千円(牡7,948千円 牝6,593千円)となりました。

前年対比で、上場頭数が26頭(牡5 牝21)の減少となっていたものの、売却総額1,118,664千円については、HBAトレーニングセールにおいて過去最高の売却総額となりました。

静内産馬については、40頭(牡22 牝18)が上場され、26頭(牡12 牝14)が売却。売却率は65.0%(牡54.5% 牝77.8%)、売却総額163,620千円(牡71,280千円 牝92,340千円)となり、平均売却価格は、6,293千円(牡5,940千円 牝6,596千円)という結果になりました。

軽種馬 市場取引成績

(HBAトレーニングセール)

◆HBAトレーニングセール 市場全体取引結果

| | 全体(前年対比) | 牡(前年対比) | 牝(前年対比) |
|--------|----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 上場頭数 | 241頭(-26頭) | 138頭(-5頭) | 103頭(-21頭) |
| 売却頭数 | 152頭(-14頭) | 86頭(-9頭) | 66頭(-5頭) |
| 売却率 | 63.1%(+0.9%) | 62.3%(-4.1%) | 64.1%(+6.8%) |
| 売却総額 | 1,118,664千円 (+29,160千円) | 683,532千円 (+16,308千円) | 435,132千円 (+12,852千円) |
| 平均売却価格 | 7,360千円 (+796千円) | 7,948千円 (+925千円) | 6,593千円 (+645千円) |

◆HBAトレーニングセール

静内産馬(所有者別)取引結果

| | 全体(前年対比) | 牡(前年対比) | 牝(前年対比) |
|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 上場頭数 | 40頭(-13頭) | 22頭(-5頭) | 18頭(-8頭) |
| 売却頭数 | 26頭(-3頭) | 12頭(-3頭) | 14頭(±0頭) |
| 売却率 | 65.0%(+10.3%) | 54.5%(-1.0%) | 77.8%(+23.9%) |
| 売却総額 | 163,620千円 (+6,588千円) | 71,280千円 (-18,360千円) | 92,340千円 (+24,948千円) |
| 平均売却価格 | 6,293千円 (+878千円) | 5,940千円 (-36千円) | 6,596千円 (+1,782千円) |

大きくなって戻って来いよ

新ひだか町牧野静内団地への入牧が行われる

5月17日、新ひだか町牧野静内団地への入牧作業が、静内酪農振興会(会長 小池孝義 会員20名) 会員をはじめ、各関係機関協力のもと行われました。この日は、春らしい穏やかな天気にも恵まれた入牧日和で、会員7名の計93頭が、採血于エック、妊娠鑑定、体重測定を経て、それぞれの牧区への入牧を済ませました。

例年、放牧されている牛の中に発熱、貧血、発育停滞を引き起こす小型ヒロプラズマ病にかかる牛がいることから、今年も、共立製薬(株)先端技術開発センターとの共同で、小型ヒロプラズマ病ワクチンの実証研究に取り組むこととなっています。

この結果については、毎月行っている衛生検査、そして、退牧時にそれぞれ確認することとなっています。

放牧した牛たちが、病気や怪我なく秋も深まった頃に一回りも二回りも大きく戻って来ることを期待しています。



それぞれ牧区に移動中です。
隊列を乱さず、行儀良く行進中です。



入牧後に行われた牛魂祭の様子です。

本格的な営農時期を迎えました！

農業に興味が沸いたかな？

食育出前授業を行う

J Aしずない青年部(部長 落合信幸 部員30名)では、5月30日に山手小学校、31日に高静小学校、6月16日に桜丘小学校でそれぞれ食育出前授業を行いました。

同青年部では、平成25年から町内の小学校を対象に特産品であるミニトマトを使用した食育出前授業を行ってきたことあり、今年で4年目を迎えます。今回は、各小学校とも1回目の授業ということで、苗の定植から支柱を立てるところまでを行い、子どもたちは、部員の説明に熱心に聞き入りながら、楽しそうに作業していました。

部長の落合信幸さんは「この出前授業を通じて、子どもたちが農業や食に対して少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。」と話していました。



苗の定植作業の様子です。
青年部員の皆さんも熱心指導しています。

今後は、7月の夏休み前までに各小学校で、芽かきや芯止めについての授業が予定されています。



生産者と市場関係者との貴重な場

選果場開きが行われる

J Aしずない野菜集出荷センターの本格的な稼働を控えた5月24日、静内そ菜振興会会員をはじめ、道内外市場関係者、各関係機関が出席し、選果場開きが行われました。

生産者と市場関係者の年1回の交流の場ともなる今回は、ジングスカンを囲み、お互いの情報交換などで歓談し、また、最後には、今年度より新規就農した3組、ハウス団地で研修を開始した3組、そして、研修生1名がそれぞれ挨拶を行い、終始和やかな雰囲気の中での進行となりました。

翌日の25日には、市場関係者に「現場」で直接生育員合などを確認してもらったための青空視察研修が行われました。

今回の視察先となったのは、本沢地区の今田浩愛さん、田中和人さん、中道雅則さん、ハウス団地の4圃場をそれぞれ視察し、今年のミニトマトの出来も順調であることが確認されていました。



今年も盛況のスタートでした！

直売の季節が今年も始まりました

もぎたて朝市・木よう市始まる

もぎたて朝市会（会長 鳥谷節子 会員8名）では、5月28日、ホクレン本所給油所横広場で、今年の営業を始めました。

今年のもぎたて朝市は、5月28日から10月29日までの毎週土曜日の計23回で、販売時間は午前9時からの30分間となっています。

新鮮で美味しい「安全・安心」な野菜がお手頃価格で買えると評判の定着した朝市には、この日も営業開始を待ちわびていたお客さんで売り場は一杯となり、盛況のうちに終了となりました。

また、同じ週の26日の木曜日からは、かんとりーママが販売する「木よう市」も始まっています。木よう市は、11月17日までの毎週木曜日、販売時間は、午前9時15分から正午まで、セイコーマートはった静内店横広場で開催しています。お近くまでお越しの際には、是非お立ち寄り下さい。



選果場開きの風景です。
西村和夫組合長から挨拶がありました。

「太陽の瞳」が 取材を受けました

ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、NHKで、毎週月曜日から金曜日の午前11時30分から正午まで放送している「つながる@きたカフエ」の6月23日放送の「この街きらり☆」のコーナーで、新ひだか町の特産品としてブランドミニトマト「太陽の瞳」が紹介されました。

今回取材を受けたのは、静内そ菜振興会ミニトマト部会会長の中道雅則さんで、リポーターの松本麻郁さん、さくら大使の西館真奈美さんと松田知桂さんが収穫体験や獲れたてのミニトマトの試食などをして、「太陽の瞳」のPRに一役買っていました。



さくら大使に美味しく食べて頂きました。
(写真左:西館さん 写真右:松田さん)

第28回 J A 北海道大会 パネルディスカッション

J A 北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業と J A グループに期待すること」をシリーズで紹介いたします。

第一回目の今回は、北海道経済連合会の近藤龍夫名誉会長と株式会社セイコーマートの丸谷智信社長の提言を紹介いたします。

農業価値の向上をけん引する北海道農業

若者が欲しがらる我が国農業

北海道経済連合会 名誉会長 近藤 龍夫 氏



近藤 龍夫 氏
(いんどう たつお)

北海道経済連合会 名誉会長
(公社)北海道観光振興機構 会長

北海道農業が率先して国民への農業価値理解活動を

「農業価値」とは、農業の存在価値的な意味合いと理解して頂きたい。

世界的には「国土を確保して守ること」「エネルギーを確保すること」「農業を主とする食を守ること」「この3つが国として最低限やらなければならぬこと」。

国家的に食と農業を価値ある重要なことと位置付けている国が沢山ある。食と農業を大事にしなければならぬ。

しかし、我が国では、農業の重要性、農業価値が忘れられてきた感がある。将来的には、世界的な食料危機がささやかれ始めており、今こそ

農業の重要性の国民的な理解が必要。政治や、幼小教育の場などを通じて、農業立国北海道が率先して理解活動を行っていくべき。

この理解こそが正しい農業の普及につながる力にもなる。

北海道農業実現に向け

国の制度づくりを

これからの農業政策において、国民に必要な基礎的な食材にあたる重要品目については、国が一定の自給力を確保するということを前提として、確たる生産目標とその実現のための政策・制度を定める。

そして、目標達成に協力する優良な農家が安心して生活し、生産に励むことができるように守るべくところは守るなどして、生産環境を整備していく必要がある。

このような生産環境づくりの政策提言や生産活動の推進、すなわち農業価値向上のけん引役として、北海道が産学官一体となって国を動かして実現を目指すべき。

これらが実現してこれまでの猫の目のように変わる対策型の政策ではなく不動の政策となれば、農業者の望むところであって「若者が欲しがらる農業」として目指すところが明確

になるので、将来に希望が持てる北海道農業が実現していくのではないかと信じている。

行きつくところ、日本の農業は、北海道的な農業に変わっていくべき。それが、世界の常識的な農業の姿。

また、農業者だけでなく、北海道大学にも担ってもらおう。

また、例えば農業に経済的なセンズを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやれるよう北海道大学に力になってもらう。農業経済は農家に任せておけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力を持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

そろそろ日本の農業構造を変えるべき時に来ている。やはり、北海道から発信していくのが一番素直な姿であり、スタートポイントになって欲しい。

力強い農業が今回の大会の基本目標になっている。

そのためには生産、加工、流通、販売、それぞれがこれからの農業には特に科学的に、そして経済学的にも世界の最先端、高度化を図って日本の農業をリードする、そんな北海道農業になって頂きたい。

所得増につながる強固なプラットフォームへ

平成30年に向けて激論を

株式会社セイコーマート社長 丸谷 智保 氏

流通機構、構造を簡素化して

中間マージンの排除

セイコーマートグループ全体で農業法人として108haを耕作しているが、農業における流通機構、構



丸谷 智保 氏

(まるたに) ともやす

株式会社セイコーマート
社長

造をより簡素化して、中間マージンを排除し、農業所得に振り向けることが重要だと思う。

そのためのより強固なプラットフォーム(基盤)として、JAあるいは中央会の必要性はより強まっている。

例えば、簡素な効果的な流通機構という点については、歩留りを上げるため非正規品、ハネものが流通する市場をつくる。常に苦労する歩留まり向上にどれだけ繋がるマーケットを創造できるか。

海上輸送の効率化

我々も物流には苦労している。遠い農村から市場の都市あるいは首都圏へ物流するコストは非常に大きい。

北海道は、どうしても海上輸送が必要になるが、これを効率化する。そついつ意味でも組織の意味は強い。効率化を進めることで、所得を増加させ、配分を変えていく。

また、プラットフォームである

Aが商品の価格を評価し、即買い取り、即支払う仕組みを作ってはどうか。資金繰りの向上につながる。

その他に農繁期の人材の確保、販路拡大。これらは今でもやっているが、より強固にしていく。

そして、安定供給、物流面での大胆な提言。これは政府に対してもやっていく。こついつたことをすべき組織としてより強いものを作っていたらどうか。

戦から外交戦略へ

平成30年に向けて激論をし、結論を出して欲しい。もうその時期に入っている。これから平成30年の大会に向けて、守るとか防衛するという戦をするのではなく、外交戦略・外交交渉をすべきではないか。

戦と外交の違いは、戦は勝つべき戦だが負けるかもしれない。

外交は100%はとれないが、最低限守るべきものは守る、あるいは主張すべきものは主張してとる、とつこと。

そついつたことを踏まえた真摯な議論・激論、そして、結論を出すことをご提言申し上げたい。

今回、所得増の具体的な数値目標を掲げたのは素晴らしい。議論を尽

して、2つでも3つでも具体論に結び付ける。やってだめだったらまたやる。物流を見直す、法律化する、政府から引き出す。

例えば、農産物を運ぶのに高速道路を使えば夕夕にする。フェリー代を安くすれば、競争力のある農産物をもっと本州に出せるかもしれない。

所得の分配に結びつく具体的な議論をして一致団結してぶつける外交交渉に入っていくべきではないか。

最後に一言

セイコーマートでは、ほとんど北海道の原材料、農産物を使用しており、大地の恩恵をものすごく受けていると感じる。

北海道は特別な地域だが、中央では、ひとくくりで見られている。

550万人のサポーターを味方につけて、北海道から日本全国の農業の重要さを是非、組織力を発揮して発信して頂きたい。



理事会報告

3月理事会 (28日)

1. JA全国監査機構による平成27年度財務諸表等に係る監査の実施結果について
2. 平成27年度決算監査の実施結果について
3. 平成27年度の自己査定結果について
4. 中期経営計画の変更について
5. 規定類の変更について
6. 平成28年度畜産収益力強化支援事業(案)について
7. 目的積立金の名称及び目的等の変更について
8. 第68回通常総会議案(決算関係書類及び部門別損益計算書)について
9. 第68回通常総会招集通知について
10. 平成28年度信用事業部門における人事ローテーションの対応について

3月理事会 (30日)

1. 対策農家等(不良債権先を含む)に係る回収及び対応方針について

4月理事会 (27日)

1. 対策農家の新規投資について
2. 対策農家の見直しについて
3. 平成27年度決算自治監査指摘事項の回答について
4. 平成28年度軽種馬生産基盤整備対策事業(案)について
5. 平成28年度農業基盤整備促進事業(案)について
6. 理事報酬の支給方法及び支給内容について
7. 行政庁に対する業務報告書の提出について

平成28年5月及び6月のホクレン北海道市場の取引結果は以下の通りとなっております。(販売金額については、全て税込み)

平成28年5月市場 (5月12日開催)

販売頭数 67頭 (去勢 41頭 めす 26頭)
販売金額 56,590,920円 (去勢 36,344,160円 めす 20,246,760円)
平均価格 844,641円 (去勢 886,443円 めす 778,722円)

平成28年6月市場 (6月8日開催)

販売頭数 58頭 (去勢 38頭 めす 20頭)
販売金額 49,480,200円 (去勢 34,394,760円 めす 15,085,440円)
平均価格 853,107円 (去勢 905,125円 めす 754,272円)

黒毛和牛素牛 市場販売成績

(平成28年5月市場～6月市場)

新入職員紹介

この度当JAに新入職員が入組致しましたので、ご紹介させていただきます。



氏名 坂本 大亮
部署名 金融部貯金共済課
抱負 渉外担当なので、お客様に元氣良く接客していきたいです。

営農課から のお知らせ 廃プラスチック回収の際のお願いについて

5月20日に実施致しました廃プラスチック回収では、農ポリ21,335kg、農ビ2,195kgの計23,530kgの廃プラを回収致しました。ご協力誠にありがとうございました。

当JAでは、環境への配慮から「リサイクル処理」を前提に回収事業を実施しておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、上記の通りリサイクル処理を行う関係から農ポリと農ビの分別につきましては、引き続き徹底をお願いします。

また、積込及び運搬の際に支障をきたす恐れがあることからハウス被覆資材等を排出される際には、十字で縛り、フレコンを排出される際には、上部の口部分を縛り、中身が出ないようにして頂いた上での排出をお願いします。